

令和元年度 実践事例報告書

学校番号	農 0 1	学校名	秋田県立増田高等学校	担当教員名	佐々木雄生
ねらい (○印)	(a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) (d) 地域との連携活動 (e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) (f) 学校組織・運営体制				
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 (c) 商標 d) その他 ()				
取組テーマ	課題研究をはじめ、専門教科におけるものづくりを主体とした研究活動と知的財産学習の融合				
年間の取組内容		時期	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①知的創造活動	04	(2)(3)	1. 創造 創造し表現する 体験	レ	(1)創造性を鍛える
②市場調査による試作品の研究	05	(1)(6)		レ	(2)情報を利用する能力
③アイデア活用法の実施	05	(4)(10)		レ	(3)発想・技術を表現する能力
④産業財産権標準テキストを用いた学習	06	(3)(7)		レ	(4)観察力を鍛える
⑤地域資源を活用した産業財産の製作・研究	07	(1)(3)		レ	(5)技術を体系的に把握する能力
⑥地域資源を活用した産業財産の製作・研究	07	(1)(3)	2. 保護 財産として保護・ 尊重する意識	レ	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦産業財産権標準テキストを用いた学習	08	(1)(8)		レ	(7)保護・尊重する意識
⑧産業財産権標準テキストを用いた学習	09	(1)(8)		レ	(8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨産業財産権標準テキストを用いた学習	09	(1)(9)	3. 活用 社会で活用する 知恵と行動力	レ	(9)手続の理解
⑩地域資源を活用した産業財産の製作・研究	09	(1)(10)		レ	(10)権利を活用する能力
⑪産業財産権標準テキストを用いた学習	10	(2)(11)	4. 知識 社会制度の理解	レ	(11)産業や経済との関係性の理解
⑫産業財産権標準テキストを用いた学習	10	(2)(12)		レ	(12)制度の学習
⑬産業財産権標準テキストを用いた学習	10	(2)(13)		レ	(13)専門家、資格制度の関する知識
令和 2 年 3 月 31 日時点の目標 達成見込 (展開型 一計画年進捗)	A	ほぼ達成(9割以上)	判 断 理 由	農業科学科: 80人/93人中(6月20日時点)知的財産に興味関心を持っていると回答。88人/93人中(12月6日時点)が制度を活用して権利の保護や将来に生かしたいと回答した。	
	Ⓔ	概ね達成(7割以上)			
	C	不十分である(6割以下)			
	D	ほとんど達成できていない(4割以下)			
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input type="checkbox"/> その他()				
本取組の状況 (なるべく具体的な数値とともに記載をお願いします)	<ul style="list-style-type: none"> ・作物班は秋田県学校農業クラブ連盟各種発表会に米飴の糖化酵素の応用や米飴の新たな原材料を利用した開発をテーマに出場し、最優秀賞を受賞。また、上位大会の東北連盟大会では優秀賞を受賞した。生徒は創造性、観察力、情報を利用する能力を身に付けた。 ・果樹班は地元農家を応援することを目的にリンゴパンを開発。地元のデザイナーやNPOの助言を受け、発想や技術を表現する能力を身に付けた。 ・野菜班はレタスをはじめとする本校産産物の商標について講師を招いて特別講義を実施した。 ・草花班は生産資材の原材料についてJ-PlatPatを用いて技術を体系的に把握する能力を高めた。 				
最も成果が見られた取組	成果内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門において、座学や実習での知財教育が実施され、産業財産権制度の学習が実施された。 ・知財学習委員会の設置から2年で教務部からの支援が本格化し、次年度は組織化を目指せるようになった。 			
	生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の知財に関する新聞記事を活用して個々のアイデアの創出の際注意する意識の高まりが図られた。 ・J-PlatPatによる先行技術から現行品の新たな工夫点を生徒間で意見を出し合うことができた。 			
[[6]]	その根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出から生徒が専門用語を活用したり、図で表現する記述が75人/93人中で見られた。 ・自分のアイデアをJ-PlatPatを用いて検索した際、同一の登録を見つける生徒が多数みられた。 			
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内パテンスとコンテストは実施しているが次年度は応募を目指す取り組みを実施したい。 ・教員の知財教育に関する研修を実施し、スキルの向上を図りたい。 				
課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究(2.3年)において、生徒と教員が知財教育について考える時間を1単位設ける。 ・月に一度教員間で農業分野をテーマとした知財教育に関する機会を設ける。 				

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

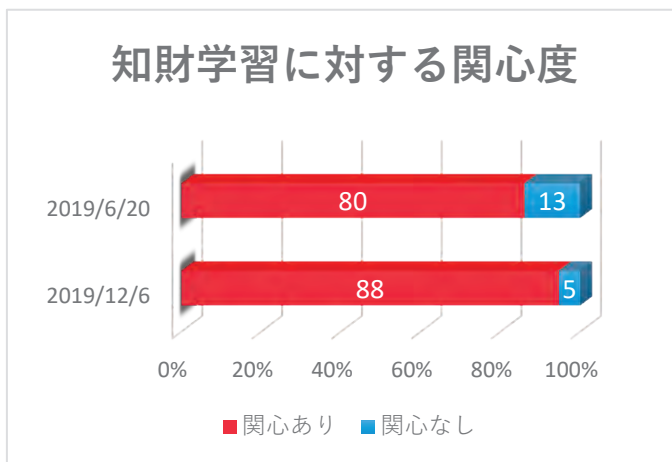
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 作物班 創作品

(写真2) 果樹班 新聞記事

(写真3) 野菜班 活動風景



(グラフ1) 成果 (指導前後の比較)

(写真4) 1年生への導入場面

(特記すべき取組と成果) 知財学習とSDGsの取組について

SDGs (持続可能な開発目標) 達成のため、カーボン・オフセットに取り組んでいる。今年度は、知的財産学習を取り入れて、SDGsの17の目標の中からCO²を排出しなかったことにできる仕組みを選択し、横手の森林を守るためにロゴシールを活用することにした。このロゴシールを添付する製品を生徒が考えた。その中で、これまでの知財学習の成果が応用され、人のために役立つ製品とは、産業上必要とされるアイデア製品など原材料を横手市産にこだわり地域社会と連携できる製品化の実現を目指した。

